

ティーチング・ポートフォリオ 2026(令和 8 年度)

山村学園短期大学子ども学科

教授 橋本 淳一

1. 教育の責任

私は子ども学科の教員として、子ども家庭福祉を主たる専門領域としながら、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に係る福祉、実習、教職等に関する科目を担当している。2025～2026 年度の担当科目は下表のとおりである。

表. 2025～2026 年度の担当科目一覧

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
子ども学ゼミナールⅠ	2025 2026	前期	2 年生	演習	10 名 10 名	
キャリアアップゼミナーⅠ・Ⅱ	2025	半期 半期	1 年生	演習	45 名	1 組担任
キャリアアップゼミナーⅢ・Ⅳ	2026	半期 半期	2 年生	演習	45 名	1 組担任
社会福祉	2025 2026	前期	2 年生	講義	57 名 45 名	1 クラス
実習指導Ⅰ	2025 2026	前期	1 年生	演習	45 名 46 名	1 クラス※教員 5 名 1 クラス※教員 4 名
実習指導Ⅱ	2025 2026	後期	1 年生	演習	45 名 46 名	1 クラス※教員 5 名 1 クラス※教員 4 名
実習指導Ⅲ	2025 2026	前期	2 年生	演習	57 名 45 名	4 クラス※教員 5 名 1 クラス※教員 4 名
保育・教職実践演習（幼稚園）	2025 2026	後期	2 年生	演習	57 名 45 名	1 クラス ※教員 3 名
子ども家庭福祉	2025 2026	後期	1 年生	講義	45 名 46 名	1 クラス
教育方法・技術論	2025 2026	後期	1 年生	講義	45 名 46 名	1 クラス ※教員 2 名
保育実習Ⅱ	2025 2026	集中	2 年生	実習	30 名 22 名	* 選択科目

ダイバーシティ と教育・保育	2025 2026	後期	1・2 年生	演習	14名 未確定	*選択科目
保育入門	2025 2026	後期	山村国際 高校3年生	演習	9名 7名	山村国際高校

また、上述の担当科目に関連して、関係各委員会と連携しながら次のような学習の企画・運営を行っている。

【実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ】

- ・「保育体験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（1年生） *実習委員会
- ・「実習報告会」（全体会・シンポジウム・懇談会）（1・2年生） *実習委員会

【キャリアアップセミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ】

- ・「学内就職説明会」（2年生） *キャリ支援委員会
- ・「就職体験報告会」（1年生） *キャリア支援委員会

【子ども学ゼミナールⅠ・Ⅱ】

子ども学ゼミナールⅠ・Ⅱの全体計画を策定し、ゼミナール実施要項及びゼミナール登録の手引きを作成し、ゼミナール関係の連絡、調整、企画及び実施調整を行っている。

- ①ゼミ生募集からゼミ配属までの連絡と調整
- ②ゼミナール学習成果発表会の企画・運営

【キャリア支援センター長として】

学生一人ひとりの将来に活かせる実際的な支援の実施を目標に、学生一人ひとりのキャリアアップを目指したきめ細かい指導、社会的自立(自律)を目指す指導、コミュニケーション能力の向上を目指す指導を行うべく、以下の職務、行事をセンターのメンバーとともに企画、運営している。

(1)センター長が中心となる主要な業務

- ・「キャリアサポートブック」の作成、「キャリア支援センターだより」の編集・発行、
- ・キャリアアップセミナー授業内の初年次教育及び進路ガイダンス、進路体験報告会・「進路講演会」・「学内就職説明会」等の企画・運営

(2) 初年次教育に関する業務

入学前教育と初年次教育の連続性を念頭に、入学前教育のプログラム作成(特に、課題及び担当者の配置)並びにキャリアアップセミナー内における初年次教育の総合プログラムの作成と実施を、学科並びに関係各委員会と連携して行っている。

(3) 企画講座（資格取得を伴う）の実施

- ・ 認知症サポーター講習
- ・ プレコンセプションケア・プログラム（学生支援委員会と共催）
- ・ あいサポーター講習（2024 年から）
- ・ 視覚障がい者スマートフォンサポーター（2024 年から）
- ・ ICT 検定（2025 年から）

(4) その他の業務

求人受付・一覧作成・掲示、公務員対策講座の企画、ハローワークとの連携、西部地区保育協議会との連携、全埼玉私立幼稚園連合会との連携、近隣幼稚園・保育園との連携、進路関係参考書の選択と配架、卒業生及び園長・施設長アンケート調査の実施と集計、社会福祉事業団の説明会や彩の国人づくり財団による公務員保育士職の案内会、埼玉労働局の講演会の開催、キャリアサコンサルタントによる面談と講演の企画・調整・実施、卒業生の相談及び再就職支援 等

なお、2025 年からは学生の免許・資格取得支援のため、本学の授業で取得可能または大学が支援できる免許資格の整理を行い、学生の免許・資格取得支援の充実を図っている。

(参考) 令和 7 年度卒業生の進路状況

令和 7 年度の就職概況について振り返ってみたいと思います。3 月 9 日時点で本年度本学の卒業予定者 59 名(3 年次生を含む)のうち全員が就職を志望し、結果 59 名全員が就職先を決定しています。内訳は幼稚園 3 名、認定こども園 4 名、保育園 32 名(公務員保育士職 12 名を含む)、施設 15 名、学童 4 名、小学校 1 名となりました。。特に今年度の公務員保育職については、学長による徹底した個別受験指導の賜で延べ 17 名もの合格者を輩出するに至るとともに、初の小学校教員採用試験の合格者も出すことができました。なお、指定校指名を受けている県社会福祉事業団職員は 3 名でした。その他、既卒者においても公務員保育職に 2 名、小学校教員採用試験にも 1 名合格者が出ています。

さて、本年度の顕著な傾向として、前述の通り公務員保育士職の大幅な増加が挙げら

れます。県内では川越市やさいたま市などに 7 名、東京都内にも豊島区や杉並区などに 5 名が進路を決定しています。また、進路先の種別では、この公務員（保育士職）のほかに、児童養護施設、学童保育所などの増加が目立ちました。しかしなにより、就職先は昨年にも増して学生一人ひとりの様々な指向やニーズに沿って非常に細かく多様化し、特徴のある就職先が選ばれている印象があります。焦らずじっくりと本当に自分にフィットする就職先選びを粘り強く行っている姿にみなさんの成長と頼もしさを感じました。

ちなみに内定を得た時期は、公務員試験の結果発表時期が遅い影響もあって、表 1 の通り 11 月 12 月がピークで、12 月末までの内定者数は 41 名（69.5%）と、例年より 1 か月程度遅い決定状況で、年明けが明けてからの進路決定者も少なくありませんでした。そして、卒業する 2 年生には 4 月からそれぞれの自ら選んだ職場で責任と共生の意識をもった社会人として活躍を祈念しています。また、1 年生には、進路選択までには思いのほか時間的な猶予がないこと、就職は就職活動だけで得られるものではなく、日々の学びの延長線上に就職があるということ、自分のことをよく理解し自分にあった進路を探しだすことの大切さを意識して、これからの学生生活に取り組んでほしいと思います。

（表 1）月別内定者数 子ども学科（令和8年3月9日現在）														
※卒業予定人数 5 9 名				内定率：100.0%（59/59 内定者数／就職希望者数）										
就職希望59名(内定59名)、進学希望0名、その他0名、未決定0名														
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	(%)
幼稚園								3					3	5.1%
認定こども園							1	2		1			4	6.8%
保育所						1	4	10	8	2	6	1	32	54.2%
施設				1				3	5	2	2	2	15	25.4%
学童									2			2	4	6.8%
小学校						1							1	1.7%
企業													0	0.0%
進学													0	0.0%
その他													0	0.0%
合計	0	0	0	1	0	2	5	18	15	5	8	5	59	100.0%
累計	0	0	0	1	1	3	8	26	41	46	54	59	59	
進路決定率	0.0%	0.0%	0.0%	1.7%	1.7%	5.1%	13.6%	44.1%	69.5%	78.0%	91.5%	100.0%	100.0%	

※「令和 7 年度キャリア支援センターだより 第 2 号」より抜粋

【一般選抜試験作問作業部会長として】

令和 5 年度入試から一般選抜試験問題は 2 科目（国語・数学（数学活用））と小論文で評価することとなったが、令和 4 年度入試に一般選抜入試が行われなかったため、令和 5 年入試向けには数学のみ新規作成した。その後、一般選抜入試は実施されていないため、令和 6・7・8 年度は令和 5 年度問題の再確認・校正のみを行っている。ちなみに、例年の作業部会での業務は以下の通りとなる。

- ①作業部会開催日程の決定
- ②作問分担者の決定
- ③問題案の検討
- ④問題・正答及び採点基準・解答用紙の作成と確認

また、すべての最終確認は学長へ依頼し行う。

なお、令和 8 年度入試においても一般選抜は行われず、かつ、令和 9 年からの学生募集は中止となったため、令和 7 年で本作業部会の活動は終了となった。

【実習委員として】

保育実習Ⅱ（保育所実習）の主担当者、その他実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの授業担当をしている。委員会活動では本学の授業科目における学外実習の取扱いについては、学生の資格取得や就職要件等のための単位取得上きわめて重要な活動であるため、関係省庁の通達に留意しながら、教育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習・Ⅱ、施設実習Ⅰ・Ⅱの各実習が円滑に行われるよう、委員長及び委員会メンバー（各実習主担当者）とともに協議検討を重ねながら実習指導の充実を図っている。

【入試広報委員として】

オープンキャンパスや SNS を使った情報発信、高校訪問、高校・会場ガイダンスの参加、広く入試制度の検討等、厳しい学生募集状況を踏まえて、委員長及び委員会メンバーと連絡調整を図りながら入試広報活動を進めている。

なお、入試広報委員会についても、令和 9 年からの学生募集は中止となったため、令和 7 年で委員会活動は終了となっている。

2. 教育の理念

私の教育の理念は、幼稚園教諭・保育士養成に携わって四半世紀を過ぎた今でも大学院を終えて教員を始めた頃と変わってはいない。簡明に言えば「自立と貢献」という言葉でそれは表すことができる。遥か半世紀前に自分自身が受けた教育の影響でもあると思われるが、今でもけっして色あせることはない。

今日の保育の学びでは、幼稚園教諭・保育士としての専門的な知識や技術の習得はもちろんのこと、なにより自分自身が一人の人間として、大人として自立していることと、子どもやその保護者だけでなくすべての他者に対してその存在を尊重し、

共感し、受容し、そして貢献・奉仕ができるようになること、そうした人間的成長もまた大切であるとされる。

そして、一人の人間として「自立」するということは、けっして一人で生きていくなどということではない。むしろ多くの他者との関わりの中で、素直な心と感謝の気持ちを忘れず、主体的に多様な人々と協働することができることを意味している。

また、「貢献」も単に社会や誰かのためになる何かをただ漠然とやるというのではなくて、むしろ辞書的な意味の通り、「物事や社会に力を尽くして、よい結果をもたらす」ことであり、いわば「貢献」は目の前にある事物に力を尽くすことから始まるのである。

「自立と貢献」そして「人間的成長」。いったいどうすれば学生がそれを実現できるのか。教員の立場から、褒めることで意欲を引き出したり、失敗を防ぐ手立てを考えたり、模範を示したり、ヒントを用意したりといろいろ模索するものの、最後はやはり学生の自ら成長する力を信じることに行き着く。彼らを信じ、学生一人ひとり異なる多種多様な歩みに対して、それを尊重、受容し、援助は最小限に傍らで支援していきたい、過剰な援助にならないよう十分に注意しながら。

さらに付け加えるなら、「自立」は「自主自律」（自分で考え、自分を律して行動する）の精神から、「貢献」は「自重互敬」（自らを大切にし、互いに敬い合う）精神から生まれ、両者が相まって「人間的成長」につながるものと信じている。

3. 教育の方法

担当する科目の授業形態が講義もあれば、演習、実習もあり、さらに一人で担当するだけでなく、2人で担当、4人5人で共同して担当する科目もあって、その教育の方法は当然一様ではない。

ここでは、教員一人での講義科目「社会福祉」、教員3名で担当する演習科目「保育・教職実践演習（幼稚園）」、教員4名（1クラス）で担当する演習科目「キャリアアップセミナーⅣ」を特に取り上げ、シラバス上にある教育の方法の関連項目を以下に示す。

1) 社会福祉

配当年次： 2 年次 開講時期： 前期 単位数： 2 授業形態： 講義

免許・資格との関係： 保育士資格必修

授業のねらいと到達目標	【ねらい】 社会福祉と現実の子ども家庭支援や保育がどう繋がっているのかを知るとともに、現代の社会福祉の考え方や体系を理解し、その法律や制度、専門的方法・技術など、子ども家庭支援や保育の現場にいかせる知識の獲得をめざす。 【到達目標】 保育者に必要な社会福祉の理念や概念、歴史、制度と法律、相談援助の理論や方法・技術、及び社会福祉における子ども家庭支援の方策について理解し、適用することができる。
授業の方法等	パワーポイントのスライドとプリントを使い講義形式で進めます。

2) 保育・教職実践演習（幼稚園）

配当年度： 2 年次 開講時期：後期 単位数：2 授業形態：演習

免許・資格との関係：保育士資格必修 幼稚園教諭免許必修

授業のねらいと到達目標	【ねらい】 幼稚園教諭・保育士として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を確認する。 【到達目標】 学生が、教員・保育者となる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を各自で図る。
授業の方法等	講義、演習、ディスカッション、フィールドワーク、ロールプレイ、グループワークと多様な形式で進めます。また、ITCを活用した授業として、幼稚園・保育所・つどいの広場等での保育実践（フィールドワーク）などでは、その実践の様子をスマートフォン等でビデオ撮影し、その様子をプロジェクターに提示して改善点や工夫点等を議論するとともに、レポート提出はウェブアンケートシステムを利用するなど、双方向型授業を意図したものとします。

3) キャリアアップセミナーⅡ

配当年度： 1 年次 開講時期：後期 単位数：1 授業形態：演習

免許・資格との関係：卒業必修

授 業 の 概 要	様々な進路を念頭に、保育所や学校・福祉の現場等における実務や教員経験がある者が、その経験を活かして具体的・実践的なテーマに沿って講演や指導を行い、それぞれのキャリア形成を目指します。また、個人面談を行うとともに、クラスでの保育の実践・行事に関する活動に参加し、保育の専門性の理解に努めます。
授 業 の ね ら い と 到 達 目 標	【ねらい】 1人ひとりに興味関心、進路に即したキャリアアップテーマや学習を通して、保育者としての必要な専門的知識・技術を身に付け保育者としての自覚を高め、キャリアアップを図ります。 【到達目標】 保育者に必要とされる知識・技術、マナーを定着させる。共感性や協調性などを対人関係の適切な場面で発揮できる。保育者・社会人として必要とされる態度、マナー、対人関係コミュニケーション力等の資質・能力の向上を図ることができる。
授 業 の 方 法 等	キャリア形成に関する指導や行事の準備活動、外部講師による講演会など、クラス単位又は学年全体で講義・演習形式で行うことがあります。また、ICT (EduNavi) を活用した双方向型の授業を行い自主学習支援を行います。また、アクティブラーニングの手法を取り入れ、【PBL/反転授業/ディスカッション・ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習・フィールドワーク】を授業内で行います。

4. 教育の成果、評価

本学では毎年前期末と後期末に学生に対して授業アンケートを実施しており、ここでは 2025 年度の授業アンケートの結果の一例として、「社会福祉」、「保育・教職実践演習（幼稚園）」、「キャリアアップセミナーⅡ」の結果を示す。このアンケートでは、問 1：学生自身の取り組み、問 2：授業の内容、問 3：授業方法、問 4：総合評価で、それぞれ 5 点満点でその評価を問うたものとなっている。

1) 社会福祉（単独の講義科目）

授業の内容と展開は前年と同じで、おおむね厚生労働省の保育士養成課程の教授内容に沿って、学生はスクリーンに映したパワーポイントを使った授業のスライドから、要点だけを授業プリントに書き写す、ノート書きをあまり必要としないフルプリント方式とした。毎回冒頭に「本時の課題」と「目次」を示し、おわりに「まとめ」を設けるよう努め、ある程度考えて書き込む要素も加えておいた。なお、シラバスには毎回の授業の予習、復習事項を付記した。

全般的に数値の改善傾向が見られた昨年に比べ本年は数値はほぼ横ばいで、問 2 問 3 のほとんどの項目は概ね 4.4 ポイント台という結果であったが、問 4「総合評価」だけは 4.30 ポイントと、前年より 0.2 ポイント以上低い数値となった。全

般的に良好な傾向に比してやや低い数値は気になるところである。

本授業は昨年 203 教室へ、今年はさらに小さい 201 教室に変更して行った。教室サイズの学生との距離が近くなったことで、授業評価のポイントがある程度安定したものと推測される。ただ、授業の進め方については、「話し方」、「説明の仕方」、「プリントの作り方」に関して工夫、改善する余地があるかに思う。

ただ、授業内容に対するコメントは、案外ポジティブなものが多く「前期の授業の中で一番わかりやすい」「年金や介護など身近なことが知れて良かった」「楽しく授業が受けられた」「昨年（児童家庭福祉）より遠くで話してくれたので快適で、すごく意欲的に取り組めた」などあり講義系の授業に理解を示しているものが多かった。

表、「社会福祉」2025 年授業アンケート結果

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平 均
1. 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.24
2. 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.48
3. 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.56
4. シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.48
5. 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.17
問2 授業内容について	平 均
1. 授業内容は、シラバスに示されていた到達目標と合致していましたか。	4.48
2. 授業内容のレベルは適切でしたか。	4.44
3. 授業の進度（速さ）は適切でしたか。	4.46
4. この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.44
問3 授業の進め方について	平 均
1. 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.43
2. 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.44
3. 授業中の板書やプロジェクター（パワーポイント等）の利用は適切でしたか。	4.41
4. 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.48
5. 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.48
6. 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.44
問4 全体的評価	平 均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.30

2) 「保育・教職実践演習（幼稚園）」（教員 3 名で 1 クラスの共担の演習科目）

本年度も、グループに壁面製作と、学内における保育実践のロールプレイを中心に授業を展開した。ロールプレイについては必ずビデオ撮影を行い、翌週に上映の機会を設け振り返りを行った。本年度も予定を告知し計画的にすべて上映した。

全般的に数値の改善傾向が見られた昨年より若干本年も数値が上昇し、最低

でも 4.31 ポイント、ほぼすべての項目で 4.4～4.5 ポイントと良好な結果となった。

表.「保育・教職実践演習（幼稚園）」2025 年授業アンケート結果

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平 均
1. 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.34
2. 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.43
3. 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.50
4. シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.48
5. 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.43
問2 授業内容について	平 均
1. 授業内容は、シラバスに示されていた到達目標と合致していましたか。	4.48
2. 授業内容のレベルは適切でしたか。	4.52
3. 授業の進度（速さ）は適切でしたか。	4.52
4. この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.45
問3 授業の進め方について	平 均
1. 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.50
2. 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.52
3. 授業中の板書やプロジェクター（パワーポイント等）の利用は適切でしたか。	4.43
4. 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.48
5. 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.50
6. 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.48
問4 全体的評価	平 均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.36

ただ、問4「総合的評価」も 4.36 ポイントと他の項目に対してやや低い数値となった。授業の内容、展開、授業内容、授業の進め方に大きな変更はなく、グループ単位で壁面を製作したり、指導案を作成してロールプレイをし、振り返りのディスカッションを行う等は自分スタイルを重視する今日の学生には心地よくないことなのかもしれない、この学生の心の機微には注意してみたい。

なお、自由記述では、「現場でいかせるようなことを学ぶことができました。」、「色んな班の指導案とロールプレイを見て学ぶことができた」、「グループワークは大変なこともあったけど、実践的に学べてよかったです」など、肯定的なコメントが見られ、教育方法・技術の総まとめであり、保育者としての能力・技術の確認や協働性の重要さの理解といった授業のねらいはある程度は達成できたように考える。ただ、「（グループでやる）人間関係が辛く授業に出られなかった」、「動画編集は知らないかな、できる人とできない人の差が……やる人だけが負担」など、グループワークの苦手感や動画編集の苦手感・負担感を訴えるコメントもあり、授業のねらいとは真逆になるものの一部学生の学生の苦手感や負担感には今後十分留意

することとしたい。

3)「キャリアアップセミナーⅡ（1年生担任教員2名の共担の演習科目）」

本年度の「キャリアアップセミナーⅡ」は、「子ども学演習Ⅱ」との授業日程と授業内容の組み合わせに入れ替えがあるなど開講日が複雑となったため、学生からみると出席カウントが難しかったことは反省点である。授業はキャリアや進路の指導をメインの教授内容とするが、学科あるいは大学全体で行う体験的な学び・行事準備など、里山保全体験学習や実習報告会、保育体験（施設見学）、ナチュラル保育検定事前準備に本試験。保育 ICT 検定や認知症サポーター講座の実施、山緑祭や Yamamura Juhla Juhla の準備、プレゼミ的なグループ別学習など織り交ぜて多様な内容で展開されている。

自由記述では、「様々な講義を通して、今後活用できそうな情報や資格などについて学びました」、特別講師や外部講師の話から「考えが変わったものや新しく知ったこと、より理解が深まったこと」など肯定的なコメントが多く、授業内容に一貫性が欠けるものの、学生にとっては知的な好奇心や探求心が満たされた印象を受けた。今後もそうした多様な展開を継続していきたいと考える。

表.「キャリアアップセミナーⅡ」授業 2025 年アンケート結果

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平均
1. 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.44
2. 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.54
3. 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.56
4. シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.46
5. 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.33
問2 授業内容について	平均
1. 授業内容は、シラバスに示されていた到達目標と合致していましたか。	4.49
2. 授業内容のレベルは適切でしたか。	4.44
3. 授業の進度(速さ)は適切でしたか。	4.49
4. この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.49
問3 授業の進め方について	平均
1. 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.51
2. 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.49
3. 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。	4.38
4. 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.49
5. 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.51
6. 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.46
問4 全体的評価	平均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.51

なお、問1「学生の授業への取り組み」では、5「予習・復習・努力をして授業に臨んだ」が4.33ポイントとやや低いもの他はすべて4.5ポイント前後で、学生の授業への取り組みは概ね良好であったと思われる。

問2「授業内容」及び問3「授業の進め方」も、ほぼ4.5ポイント前後で、教員の授業の内容や授業の進め方も、問1同様に概ね良好であったと思われる。ただし、「授業中の板書、プロジェクターの利用は適切だったか」は4.38とやや低く、視覚的な教育方法・技術については更なる工夫が必要とされていると思われる。

問4「総合的評価」も4.51ポイントと数値的には「授業内容」や「授業の進め方」と同じく概ね良好な評価であったと思われる

5. 教育の改善に向けた今後の目標

1) ICT化に対応した教育の改善について

2021年度から本格導入されたEdeu-naviシステムについては未だ十分には使いこなせておらず、不慣れな私にとっては重要な課題と思われる。Edeu-naviの本来の機能を活用するなら、授業資料のアップロードや課題提示、小テスト、個別の質疑応答等多彩な活用が可能であるため、これらをぜひ活用した授業内容を導入したいと思う。

2) 授業のねらいと到達目標について

卒業生の学力の質の担保の観点から、授業科目ごとに設定する「授業のねらい」と「到達目標」を念頭にいれ、より到達目標に学生が到達しやすい授業展開の工夫が重要と考える。現在も、授業開始時に今日の授業内容のあらまし、展開を話し、終了時にはまとめを行っているものの、その学び方、受け止め方は個人に任されている。大学教育はそもそもそうした学習への自主性が重要であることはいうまでもないものの、現実にはその個人差は大きい。したがって、ある程度オートマチックに学びを受け止められるようなプリントづくりは有効な手段となり得るかもしれない、その研究・工夫を行ってみたいと思う。

3) 個々の科目の教育の改善について（社会福祉を例に）

短期的目標	①学生が学びやすい授業規律の確立(授業環境の整備)
-------	---------------------------

	ごく一部の学生であっても、授業中の私語や、携帯電話の使用（HP 閲覧、メールやゲームなど）などは、他の学生の学習意欲や効果を大いに低下させるため、そうした行為を根絶し、学びに関する一定の規律が保たれた教室、授業をめざしたい。 ②学生が学びやすい授業内容 本科目の場合、厚労省より「教授科目の内容」として教授内容を細かく指示されているため自由度は低い。その中で、教授する内容を学生の想像力の範囲を想定しなら精選するとともに、福祉（サービス）のリアリティを新聞記事や映画を使ったフィクション・ノンフィクションの事例を活用することで学生に感じてもらい、関心・意欲を高めたい。 ③学生が学びやすいアクティブラーニングの導入 アクティブラーニングを取り入れて、グループディスカッション等から学んだ内容について現場や業界の実際などの視点を交えながら深く触れられるような取り組みを試みたい。 ④授業のねらい・目標を達成しやすいノートテイクの開発 たとえばコーネル式など、学生が考えを自ら考えをまとめることが求められる、従来の穴埋めに終始しないノートテイクの工夫があってもよいのではと考えた。
長期的目標	本科目は保育士養成課程における福祉に関する教科目の一つであり、そもそも保育士は福祉職であることから、授業を通した「福祉マインドの薫陶」こそ、最大にして長期的な目標といえる。 ある意味熱量のある授業によって、特に、「ノーマライゼーション」、「インクルーシブ」といった現代の福祉のコアとなる概念を学生一人ひとりが理解して、それを保育の営みの中で体現できるかたちで、身につけていけるよう希望している。

6. エビデンス一覧

- (1) シラバス（社会福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、キャリアアップセミナーⅣ）
- (2) 授業時配布プリント（社会福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、キャリアアップセミナーⅣ）
- (3) 授業使用パワーポイント・プリントアウト（社会福祉）

- (4) 試験問題 社会福祉筆記試験
- (5) 成績集計結果 (社会福祉)
- (6) 授業アンケート結果 社会福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、キャリアアップセミナーⅣ
- (7) 子ども学ゼミナールⅠ・Ⅱ実施要領、同ゼミナール登録の手引き、ゼミナール学習成果発表会実施要領
- (8) 学内就職説明会実施要領、進路体験報告会実施要領
- (9) キャリアサポートブック
- (10) キャリア支援センターだより

(2026/8/31 記)